（第３種郵便物認可）　プレス空知　２０１７年(平成２９年)３月18日(土曜日)

「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース キャティ）

２０１７年３月　第108号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　平野富康

「想像する力」を豊かに

國學院大學北海道短期大学部　副学長　平野泰樹

二年生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業に際して「想像する力」ということばを送ります。

想像とは、「頭の中に思い描くこと、既知の事柄を基にして推し量ったり、現実にはあり得ないことを頭の中だけで思ったりすること」をいいます（三省堂『大辞林』）。英語ではイマジネーション（ｉｍａｇｉｎａｔｉｏｎ）です。考えることの源泉でもあります。

想像することは、創造することに繋がる人間固有の能力といえます。十年後、百年後を想像し予測することができるのは人間だけです。そして、この想像する力は多様化し複雑化する社会ほど必要とされます。例えば、危機管理は、どういうリスクがどういう状況においてどう現実化するかをさまざま想像し、どうすればそれを防ぐことができるのか、あるいは被害を最小限度に抑えられるかを考えなければ、その対策を講じることはできません。これを怠ると、原発事故のように、ときとして取り返しのつかない事態が発生します。

皆さんは、これから様々な課題や難題に直面するでしょう。ときに心が折れそうになることもあるでしょう。それを乗り越えて行くには、学問、勉学、他人とのコミュニケーション等々で身につけた想像力をさらに豊饒なものにしていくことが望まれます。とかく思いどおりにはならない人生を豊かに幸せに生きるにはどうすればよいのか、大いに想像力を働かせて考えて下さい。いうまでもなく、想像することは、またとても楽しいことでもあります。

2年間ありがとうございました

両親や先生方、友人たちに感謝

教師の目標にまい進

元々商業高校出身者が国文学科に進学するということは稀なことだと思う。私が知っている限りでは数人ほどいるが、ほとんどが普通高校からの進学である。入学当初「なぜこの短大に?」と思っていた人はいたと思う。実際私も「この短大で本当にやっていけるのか」という不安もあった。それがもう2年前の話になるというのだから、驚きを隠せずにいる。

この短大には全国各地からやって来た、個性を主張しすぎている愉快な仲間がいる。そんなみんなと過ごしたこの2年間は充実していて、少し物足りない気もする期間であった。それぞれ自分の好きな事があって、その好きを共有できる仲間がいて、お互いを高められる環境があって、親身に相談できる先生達がいて、そんな中で制作した卒業論文はこの2年の集大成であり、思い出の詰まったものとなった。さらに2年生までかかった人もいる百人一首や土曜日まで登校して学んだ教職課程は、社会に出たときには必ず何かの形で役に立つと確信をもって言えることだと思う。

特に教育実習が私の一番の思い出である。この2年間、同じ目的を持った仲間と共に教職課程を履修していくうちに、私は教師という職業に対して憧れを抱くようになった。そして教育実習では、生徒指導に苦労しながらも積極的に物事を学ぼうとする生徒たちに、生徒にとってのわかりやすい指導をすることの大変さや面白さに心を惹かれ、今では教師を志している。

最後にこの短大へ進学させてくれた両親、色々なことを教えてくださった先生方、一人暮らしで不安な私たちを暖かく迎え入れてくれた地域の方々をはじめ、多くの人たちに支えられてここまで来たので、自分の将来に向かってさらに精進していきたい。（国文学科２年／齋藤圭淳）

先輩からのメッセージ

短期大学部の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

滝川での生活も、いよいよ終わってしまいましたね。振り返ってみて、いかがでしたか?語れる2年間になりましたか?いよいよ4月からは新しい生活が始まりますね。

卒業生へのメッセージということで、何を書こうか迷っているところですが、今回は就職活動について、書かせていただきます。（もう既に、就職をされた方や教職志望の方、ごめんなさい）3月1日から本格的に始まった就職活動ですが、もう既に感じていることがあります。「もっと早くから就活を始めていればよかったな」と。

本学の就活市場を見ていると、「解禁時期は」の月か、じゃあそれまで何もしなくてもいいや」と考える人と「毎年スケジュールが変わって不安定だから早めに動き出して対策をとろう」とする人に結構はっきりと分かれています。（私はどちらかというと後者でした。）また、「売り手市場らしいから応募きえしていればどっかには入れるんでしょ」と考え、適当に応募はしてみるものの、事前の対策（ESやSPI）がとれていないために、夏を過ぎても内定が出ず、ようやく真剣に就活と向き合うようになった、という先輩も私の周りにはいました。

将来の目標を早めに思い描いて

就活の動き出しが遅れると、後になって必要以上に苦労をしてしまうのは間違いありません。

卒業生の皆さんは、編入したばかりで、まだ就職活動の実感がわかないかとは思いますが、ぼんやりでいいので、将来何をしたいかを思い描く時間を作ってみてください。また、できるだけ多くの単位を3年生の間に取得しておくことをお勧めします。皆さんと本学でお会いできる日を楽しみにしています。（國學院大學経済学部経済学科３年／安孫子真次）

仲間と過ごした大切な思い出

感謝を忘れず未来へ

入学したころは不安がいっぱいで、北海道で2年間やっていけるか心配でした。しかし、オリエンテーションや入学式、宿泊研修などで声をかけてくれる人もいて、少しずつ不安がなくなっていきました。

児童教育コースの人たちはみんな優しく困ったことがあると相談に乗ってくれました。休み時間にはみんなでご飯を食べたり、トランプをしたりとほとんどの時間を児童教育コースの人たちと共に過ごしていました。

また、それぞれの誕生日や祝い事があるとみんなで集まり、お祝いをして楽しい時間を過ごしたことでとてもいい思い出の一つになりました。これからそれぞれ、編入や就職など様々な道に進みますが、この関係を崩すことなくいつまでも仲良くできたらと思いました。

部活では軟式野球部として2年間やりました。2年になってからリーグ戦に出場させていただいて良い経験になりました。春の大会では、4部ではありますが優勝させていただきました。秋の大会では結果を残すことができませんでしたが、またみんなで野球をしたいと思えるほど、本当に楽しく野球をすることができました。

この2年間は、私の人生の中で決して忘れることができない、とても深い2年間になりました。優しく素敵な友達や親身になって聞いて下さる先生方に出会えたことで、充実した最高の2年間になりました。私に関わってくださったすべての方々に感謝の気持ちをもって、これからの生活にこの経験を活かせるようにしていきたいと思いました。

2年間本当にありがとうございました。（幼児・児童教育コース2年／髙橋蓮）

「FM―CATY」貴重な体験

専攻科でさらに飛躍

入学して間もない頃を思い返せば、私はいつも緊張していました。その緊張が解け、充実した2年間を送れたのは、やはり家族や親戚、そして友人たちや先生方、支えてくださった皆様のおかげだと思います。

私は、福祉介護コースでしたが、幼児保育コースの仲間たちと一緒に、講義や実習、イベント等を過ごしました。幼少時から憧れていた保育士や幼稚園教諭免許をとるための様々な講義は、高校までの授業とは全く違い、戸惑うこともありましたが、先生方も丁寧に指導してくださり、自分の夢へと繋がる内容だったと思います。そして、保育所や幼稚園での実習や、「子育てサロンありす」への参加、「楽しい発表会」などのイベントを通しての活動は、実際に子どもたちと触れ合うことが出来て、大変貴重な経験、そして思い出にもなりました。

また、「FM―CATY」でのラジオ活動は、この短大に入学しなければ出来ないことであり、たくさんの人と繋がれる貴重な経験になりました。

この2年間で私は様々な知識や技術を身につけ、また精神面でも大きく成長できたように思います。

春からは専攻科福祉専攻の学生として、また1年この國學院短大にお世話になります。専攻科での生活を通してもっと精進していければと思います。

2年間、多くのことを教えてくれた先生方、時間を共にした友人、支えてくれた全ての方々、本当にありがとうございました。（幼児・児童教育学科福祉介護コース2年／上杉日菜恵）

楽しい思い出が尽きない2年間

自信を持って編入学

入学する前は長いと感じていた國學院大學北海道短期大学部での2年間は、様々な面で私を大きく成長させ、とても充実した学生生活となりました。「感謝」の気持ちを表しながら一つ一つ自分の足跡を振り返ってみたいと思います。

専門科目は、英語と第二外国語としてのフランス語、そして国際文化の授業を中心に履修することで、将来の自分に繋がる大きな架け橋となりました。また、自分の専門ではない教養科目の授業では、幅広い分野を学び、自分の視野が広くなることを実感しました。

このように専門科目や教養科目は、私の短大生活を充実させてくれたのですが、学生生活をより有意義なものとしてくれたのは教職課程であったように思います。教職課程では、他の学科の学生との合同の授業が多くあり、幅広く交流することができました。こうして友情を深めた教職課程の友達は、同じ苦労を共に乗り越えてきたこともあり、今ではかけがえのない存在となっています。

また、2年生で行った3週間の教育実習は、教室の中では学ぶことができない貴重な実践経験を数多く積み重ねることができました。実習期間中は、毎日中学生とかかわる楽しさを感じていましたが、教育の難しさを改めて知るという苦しい思いをすることも度々ありました。このように楽しさと苦しさが交差する実習を通して、新たな自分を発見することができたと思います。

短大生活は楽しいことだけでなく、辛いこともたくさんありましたが、これらを全て乗り越えたからこそ、自信を持って卒業することができます。卒業後は、さらに自分自身を高めるため、編入する國學院大學での生活を一層充実させていきたいと考えております。

卒業を迎えるにあたって、編入学するという私の決断に向けて様々なご指導やご助言をいただきました多くの方々に心から感謝を申し上げます。二年間、ありがとうございました。（総合教養学科2年／織田琳華）

多くの出会いと支えに感謝

新たな場所で頑張る

私たち専攻科第17期生は4名という過去最少人数で始まり、卒業します。

今年度から新たに加わった「医療的ケア」、5日間の介護実習1、夏休み中の居宅実習、6週間の介護実習2や卒業研究、友人と悩み、先生方に助けていただきながら乗り越えることが出来ました。中でも不安に思っていた6週間の実習では、先生、施設の職員・利用者の方など、周りの関係者の皆様の助けにより、無事に終えることが出来ました。周りの方々の援助がなければ成し遂げられなかったことだと、本当に感謝しています。

また、調理実習の授業では、高齢の方々に合わせた食材の大きさなど、普段の調理では気にする事がない物に注意するなど、新たな発見がありました。

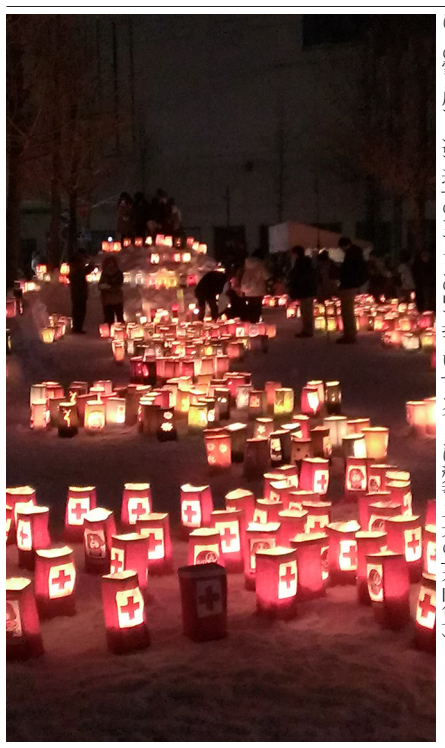
その後の試食では、先生方のお話を聞くことが出来たりと、調理以外の事も学ぶことが出来ました。

これからそれぞれの道に進みますが、今までの学生生活の中でも一番充実し、内容の濃い専攻科での1年を胸に刻み、新たな場所で頑張っていきたいと思います。

終わりに、介護福祉士としてだけではなく人としても成長出来るよう、私たち一人ひとりに向き合い、長所と短所を理解し改善していけるように関わってくださった鍋澤先生、西原先生には大変お世話になりました。（専攻科福祉専攻／湯本遥）

光の尊さと温かさ思う

たきかわ紙袋ランターンフェス



滝川幼稚園の園児達の掛け声とともに点灯された「第15回たきかわ紙袋ランターンフェスティバル」。2月18日は二十四節気の一つ「雨水」であり、立春から2週間が過ぎて暦の上では確実に春へと向かっている。

しかし、この日はあいにくの雪と風で、凍て返る寒さに身も心もふるえた人が多かったに違いない。ランターンフェスティバルに参加している人々は、色とりどりのニット帽やコートに身を包んで、幻想的なランターンの光を見つめていた。

風が吹くたびに趣向を凝らした紙袋の切り抜きのデザインの中で揺らいだ炎。消えそうになりながらも形を変え、強く輝き、大きくなったり、小さくなったりしながら明かりをともし続ける。

普段の生活の中で、電球の明かりに慣れてしまっていた私は、あらためて光の尊さを実感することができた。設置されたランターンは紙袋と一本のローソクのみで制作され、かじかんだ手をかざしてみると、炎のあたたかさがほのかに伝わってくる。

今年で15回目となったランターンフェスティバル。多くの人々の協力を得ながら年々規模が大きく賑やかになってきた。たった3時間だけの間に作り出される幻想的な世界を来年もまた見られるよう応援していきたいと思う。（国文学科1年／石岡佑也）

1年間の活動の集大成を発表

舛井ゼミ地域報告会

舛井ゼミの集大成でもある地域報告会が2月21日、滝川市まちづくりセンターみんくるで行われた。7時間というとても長い時間であったが、一瞬で終わったように感じた。

地域報告会は毎年行っており、ゼミ生の1年間の活動の集大成である。会場の予約、会場造り、地域の方々への声掛けなどの段取りをすべて学生自ら行う。研究発表の内容は、ツーリズム、六次産業、ソーシャルキャビタルなど約20種類の報告を行った。全てすばらしい研究ばかりで感激した。

また、舛井ゼミは地域の方々にたいへんお世話になっている。まちづくりへの参加ができるのも地域の方々の協力があるからである。商店街や江部乙地域の方々には大変お世話になっており感謝している。その感謝の気持ちを伝えるべく地域報告会では、事業部ごとに1年間の活動内容を振り返り、地域の方々へ感謝の気持ちを述べた。

さらに、舛井ゼミで参加した全国まちづくりカレッジの報告や、東川町で行った合宿についても振り返り、当時の思い出がよみがえった。私事ではあるが、B級グルメの研究を行っていた。グルメの研究ということもあり、急遽山形の芋煮を作って学生に提供したいと思った。時間が無い中たくさんの人に協力してもらい、無事成功することができた。おいしいと言ってもらえて嬉しかった。

4月から私たちの新しい舛井ゼミが始動する。昨年度同様滝川市のまちづくりに貢献していきたい。これからも舛井ゼミをよろしくお願いいたします。（総合教養学科1年／真木拓哉）

親子で凧づくり

「はる展」会場で

「はる展」期間中の2月18日、滝川市自然史美術館で本学の幼児・児童教育学科学生による「手作り凧をつくろう!」のワークショップが開催された。小さい子ども連れの親子をはじめ一般市民の方々も参加し、それぞれの思いを込めて凧づくりをしていた。

凧作りを教えていた学生は「子どもたちに作り方を教えると、呑み込みが早く、あっという間に凧が完成してしまった」と話していた。真剣に凧作りに取り組む子ども達。そんな姿に周りからは、これからの成長に期待するあたたかい眼差しが向けられていた。